

いづみ会々報

第 14 号

昭和 42 年 10 月 1 日
発行所 いづみ会
東京都練馬区東大泉町 380
都立大泉高等学校内
編集者 いづみ会々報部
編集者 いづみ会々報部
印刷所 渡辺印刷所

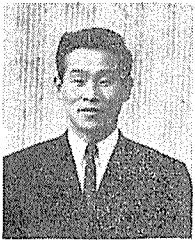
いづみ会の構成人員(昭和42年)

現職員	82	高 4	323	高 12	370
旧職員	104	高高 5	371	高高 13	372
中 1	220	高高 6	368	高高 14	369
中 2	166	高高 7	367	高高 15	362
中 3	85	高高 8	364	高高 16	355
高 1	72	高高 9	363	高高 17	361
高 2	152	高高 10	375	高高 18	508
高 3	242	高高 11	375	高高 19	465
				員 7, 191	

— 独占手記 —

ケニアから, サンヤより

大泉生アフリカに在り (高 8 山谷 敬之)



ケニアに日本青年海外協力隊員として派遣されて早くも半年英語, スワヒリ語を国語として併用しているケニアの言語生活にも馴れ, 日本とは異った風俗, 習慣, 気候の中に溶け込み元気に仕事をしています。当初, 現地人すべてが同じ顔に見えたのが, 最近では彼らの種族, 容顔の特徴が見分けるようになってきました。

ケニアの南北を貫いている雄大なリクト・バレーの中腹に位置するギルギル。商店が 15・6 軒街道筋に並んでいる小さな町。これが私の住んでいるギルギルです。町というより, 日本人の感覚からみたら村であろう。英国の植民地時代にはホワイト・ハイランドとして, 白人の農場経営者が周辺一帯に広大な牧場, 農場を営んだ名残りの豪華な邸宅が点在する。その付近にある現地人の土造りの家を見ると, 植民地時代の彼らの生活が容易に想像することが出来ます。

赤道まで北へ 30 マイルの南半球側海拔約 2,000 メートルの高度は高原特有の快適な気候を作り出しま

す。もちろん, 日中は相当気温が上昇しますが, 湿度が少ないため, 木陰, 家の中は涼しいといった感じです。夕方から温度はぐっと下り, 一年中で一番寒く 7・8 月には気温が摂氏 10 度を割ることもあります。

この地に私が勤務するナショナル・ユース・サービスがあります。独立して日の浅いケニアでは近代産業も少なく, 青少年の就職問題は困難なものがあります。失職青少年を志願により募集し, 2 年間集団生活をさせ, その間, 国家開発の道路建設, 開墾, 山火事の消火作業等々を行いながら, いろいろの技術を得させて, 社会に送り出す機関がナショナル・ユース・サービスなのです。ギルギル訓練所は基礎訓練所で 2 年間の集団生活の基礎訓練を青少年達にさせるのです。訓練の一環としての彼らの基礎体力の養成が私に与えられた仕事です。1 年間に 3 回, 新訓練生が入所してきて, 10 週間の基礎訓練を終了して次の段階の訓練所へ行っていきます。一回の訓練生の数が 600 名。彼らと共に草原を走り, 山に登り, サッカー, バレーボールをし, 彼らにとって初めての経験である徒手体操を教えたりするのが私の仕事です。

たった一人でケニアの片田舎で生活しているのも楽しいことも苦しい

こともある。日本語を思う存分にしゃべってみたいと思う時もある。大泉高校で体育を教えていた時のことを思い出さずとも

ある。だが日本青年海外協力隊に参加したのは誰に勧められたのでもない, 自分の意思で参加したのである。自分の選んだ道である。苦労は覚悟の上, 私は苦労を買ったつもりでいる。大泉高校という何一つ不足のない恵まれた環境, その上, 母校で教鞭がとれるという幸せに甘えず自己を未知の世界に放り込み一から叩き直すつもりで, 仕事をしてみたい。その結果が開発途上のケニアの体育界の一助となるよう努力してみたいと云うのが参加した動機の一つでした。私の力は微々たるものですが, ケニアにいる間約 3,600 名の青年たちを直接教えることになるでしょう。彼らが体育の必要性, よさ, 楽しさを体得してくれたら本望です。またナショナル・ユース・サービスは各地に訓練所をもっていますが, 各訓練所の体育指導者の教育も私の一つの仕事であり彼らが立派な指導者に育ってくれば幸いです。私はケニアに来てよかったと思っています。最後に遠くアフリカの地からいづみ会の発展をお祈りいた

母校近況報告

二十有余年の昔, 静かな武蔵野の地にその源を發した大泉はその流れを大きく変えることもなく今日に至っている。

例年のことではあるが, 人事異動によりいわゆる名物先生が学校を去って行く。今年度もその例にもれず, 十年選手, さらにそれ以上の古強者が相当出て行かれ, 随分寂しくなったなどという声も聞かれる。こういった先生方は皆ただ者でないところが, 生徒全ての信頼を得ていたとはいえない面もあるように思われる。従って去ってしまうのは借しいというのはい部の者の声であるかも知れない。併し何れにせよ, 彼等が大泉の今日ある姿に大きな影を落していることは確かであろう。いわゆる有名校ほど教師の交代が滞っているとわれ, これを打開する為に新陳代謝が活発になってきているともいう。彼等が新たな職場でより一層の活躍をされることを望みたい。



〔本年運動会のスナップ〕

ところで近況ということになると, まず気になるのが外から眺めた表面的なもの, 即ち校舎や校庭などのことである。

数年来, 新校舎の建築が行われてきていて, 現在 2 棟ほど完成しており, 更に木造校舎を取り壊して新築するそうである。予算の関係上, 一度に建てかえることが出来ないであろうか, 部分的に取り壊しては建て, 建てては取り壊すといった状態であり統一のとれたものではない。ゆくゆくは全てが新しく生まれ変わるというところである。

古い期の人達にとっては思い出の校舎の無くなるのは残念かも知れな

泉会興廃此一日ニアリ
各員一層奮勵参加セヨ
定期総会開催告示
於大泉高校大講堂
自 10 月 29 日午後 2 時
有南蛮渡来民族舞踊
(会員総動員)
懐古親密雑談場設置
以上

しします。(後記) 以上は, 遠くケニアより編集部に特別に寄せられたものを, ほぼ原文のまま掲載したものである。なお, 今秋 NET・TV で放送される“世界の日本人”(木曜夜)で, 先生の生活が紹介されることである。(先生の住所は下記)
Yoshiyuki Yamatani
P. O. Box 16, Gilgil
Kenya

果して受験戦争なのかどうか知らないが, それによってかなりの障害が起こることは我々自身の体験からしても言えることと思う。

とにかくこの方式では群内の各校に平均して人をばらまくのだという。こうして学校別の格差が解消するのだという。ある先生の話によるとこの方式では従来よりも上下の差が大きくなり, 指導も難しくなることのであった。とにかくこの制度に関しては賛否両論であり, またこの種の問題は長い目で見ることも必要なのだと思う。こういったことは大泉の校風にとっては本質的なものではないように思われるが, かなり論議を呼んだことだけにあえて述べたまでである。何れにせよ我が大泉の伝統と今後の発展の為に好結果の出ることを期待したい。

(高 19 期 山田 進)

異動職員

昭和 41 年度

堀江徳宝 国語・23年→城南高校
花崎文一 理科・20年→小山工専
畑野正毅 数学・17年→九段高校
森谷安吉 理科・〃→豊島高校
須田弘 英語・11年→小松川高
甲賀多重子 体育・7年→退職
服部正平 国語・4年→秋川高校
園城寺信一 英語・3年→日比谷高
木村幸雄 国語・2年→福島大学
丸山松幸 〃・〃→関西大学
尾上京子 事務・3年→退職
堀 なつみ 司助・4年→転職
(転入 12 名)

昭和 40 年度

清水貞助 校長・3年→両国校長
石上 堅 国語・25年→東横女短大
広瀬芳子 英語・3年→退職
渡辺勝馬 〃・1年→定時制
安田志津子 養護・2年→退職
(転入 5 名)

進学状況

都立大 17 芸大・埼大・北大
東京教育大 15 東北大 各 2
東京学芸大 15 京大・横浜市大・
東京大 12 横浜国大・商船大
電通大 12 小樽商大・札幌医
東工大 10 大・岐阜薬大・秋
東京農工大 9 田大・静岡大・防
千葉大 9 衛大 各 1
一橋大 8 早稲田大 75
お茶水大 7 慶応義塾大 28
東京外語大 3 東京理科大 17
中央大 17

就職状況

富士銀行・日本勧行銀行・安田火災
大東京火災・大和証券・セーラー万
年筆・八幡化学・練馬農協・石井瓦
店・YMCA 建築研究所・地方公務
員・警視庁・村山療養所・家事手伝
各 1 計 14 名

いづみ会の将来

— 問題点とその展望 — (編集部)

母校大泉高校は昨年創立 25 周年を迎え, いづみ会も今年で 23 年目を迎える。会員数も年々増加し, すでに七千二百名の多きに達した。ここで, このような規模の拡大に伴って本会の直面している, いくつかの問題について考えてみたい。

規約について

本会の憲法とも言べき“いづみ会規約”は一昨年全面改正され, その最重要改正点は, 幹事会中心方式の採用(第 5 条)である。従来の総会中心主義が, 大世帯の実情に合致しなくなった事を考慮して生れたものである。以来幹事会は次第に充実し, 審議も活発になって来た。

次に現旧職員の規約上の地位についての問題がある。今回の改正に際し, その内容は必要十分なものに限定すべきであり, 直接の会員となるものは卒業生のみであるとの結論に達した。この為, 学校とも連絡をとりつつ, 現旧職員の地位は, 明文としては規定されなかったのである。しかしながら 6 月の母校との連絡会において, この点を改正するという方向で意見が一致し, 現在常任幹事会で検討されている。各期・各クラスが担任の先生を中心にまとまっているという現状からも, 歓迎すべき進展といえよう。

名簿について

本会の名簿は, 36 年に発行されて以来まだ改訂されていないが, その台帳たる基本カードの整備は, 毎年定期的に行われており, 事務局は万全を期している。ここで改訂が見合されているのは, 次の様な問

題による。それは, ここであえて大金を投じて名簿を作るか, あるいはそれを名簿よりも会員に対して還元性の大きい特別事業の資金とするかという事である。しかしながら, 色々問題はあろうが, これら二者を両立させるという方向で, 一層の審議を望みたい。

特別事業について

上に述べた特別事業として, 同窓会館の建設・いづみ会の寮などが提案されている。前者については, その規模にもよるが, 校内に建てられた場合, 大泉は盛り場から離れたらに, 同期会・クラス会等の利用度の予想はつけ難く, またその管理・運営は結果的には学校の手をわずらわす事となる。従ってそれらを解決する事が, その実現への第一歩となるであろう。

次に後者については, 例えば海の家・山の家等を確保し, 会員の自由な利用に任せようというものである。現在母校の棟名寮は, 本校卒業生(会員)にかなりよく利用されており青春の思い出の 1 ページを創り出している。この様に有意義な施設を, 本会でも所有しようというのがその趣旨である。これについても, 管理運営・財政面, さらに会員の希望をいかに取り入れるか等, 問題は多いが, 長期的見通しに立って充分に案を練り, 早い機会に実現されるよう幹事会に期待する。

これらの問題点について, 会員諸君も, 意見・要望等をどしどし寄せられたらいい。(大泉高校宛で可)
(以下 2 面へ続く)

—特別訪問記—

花崎先生

ああ大泉!! 若き俺が

堀江先生

文公減俸に悔む



7月2日午後1時何だか雨が降りそうな降らなような変な天気。桜台の駅で待ち合せ、3人で交番で見てきた地図の記憶を頼りに文公こと花崎文一先生宅を捜しはじめた。「あっちだろう」「こっちよ」ぐるりぐるりと1時間少々小雨の降り出した頃やっと「花崎文一」の表札をみつけた時のうれしさよ。おごそかにベルを鳴らしお手伝いさんが現われた。客間に通されると、前は大きな池、何ともは先生はステテコ1枚で池の掃除の真最中であつた。もう1人、パンツ1枚でそれを手伝っている中年の男性。話によると映画会社の人で、実験映画の打合せにきたところ物のはずみでこういう事になつたらしい。ヤレヤレ...

「こんな先生と仕事をするんじゃないか」との評である。確かに先生はどこから見ても学者の人間とはいえない様だ。だが話をしているうちに感じた事は、いまだかつてこれほど大泉や、その生徒の事を真剣に必配している人に会った事がないという事だ。同窓会の事もかなり心配しておられる。たとえば同窓会に先生方の出席の少ない事、同窓会のために骨を折ってやろうという先生のいない事等、先生は出世欲にかられ、すべてお金を換算しようとするサラリーマン化した教師の実態を大いに憂えている。結局、同窓会の仕事をしても自分の為には一文のとくもないというのだそう。そんな先生の多いなか、本田先生、菊谷先生、坂間先生は、母校とはいえ、よくやって下さったと感謝にたえない。夏季講習にしても本当に生徒の事を思っていて先生がいったい

高18同期会

我々は卒業して2年、そろそろ同期会の準備をしたらというので、4月の中頃から、幹事会を何回となく重ねてきた。会場は東武デパートの6階、6月24日(土)と決った。ところが葉書を印刷する日が日曜だった為、往復葉書500枚が揃わず、ある幹事が東奔西走して買い集めるという一幕もあった。回収された葉書は250名で、そのうち出席者は110名。少々少ないが、無謀にも130名を予約、幹事は当日の出席者数を考えると、夜もねむれなかった。いよいよ当日。1時間も前から会場に集まる。会場は会食形式で、少々堅い感じだが、まあまあというところ。やがて散々集ってきて4人の先生方が来られた時は、生徒席はほぼ満員であった。ある先生曰く「何だ結婚式みたいななあ」いよいよ食事が出され、幹事も胸を撫で下して開会となる。先生に一言づつ御挨拶を述べていただき、どうやらまともにはじめられた。他の先生方も、一団となつていらつしやうり、出席率では生徒をはるかに上回った。今回は、二次会の為の一次会という事で、別にアトラクションも何も無い。それに放っておいても、皆勝

何人いるかとなげく。一般の先生だけではない校長先生もそうであつたとか。大泉の為に、何か自分がしてやろうという気のある先生が少ない。皆、手掛けた仕事も半分で、大泉をふみ台にして、他の学校へ逃げてしまう人が多いのだそう。自分に10の力のない人でも7しか力がないと自分でいえる人なら先生達は喜んでバックアップするが、からいばりしているのは最低だという。話は変わるが「工事に行つて給料上がった?」という質問に、「2万円も下がったぞ」と口をつき出した。遠くに行つて給料が下がつては全く気の毒な話である。だが先生は大泉をはなれたおかげで、はれて大泉の関係者に大いに説教できる立場に立つたわけである。

大体大泉は入学時の最低点は小石川よりも高く、平均半分以上が西校の得点と重なっているにもかかわらず、出て行く時に、あれだけ差がつくのがおかしきと言う。我々も入学以来持っていた疑問である。先生の説によると数学に原因があるという。つまり入学試験というのは、むづかしい問題とやさしい問題とまざっているのに、大泉では一流大学の問題中難題ばかりをつらねて、それで点が悪いと、もうだめだと思ひこむからだそうである。

「じゃ、そろそろ失礼します」と何回も立ちかけるが、「それからねえ……」と先生の一言でまた腰をかける。そんな事をくり返しているうち、奥さんが帰っていらした。お二人の会話をきいていると、先生はかなりの恐妻家(?)のようだ。その上に「敬」がつくかも知れない。やつと先生のお宅を出た時は夜の8時。何と長くおしゃべりした事か。しかし、帰り道でも先生のお話をきいて興奮のさめやらぬ3人の会話は熱がこもった。

まだまだうかがいたい話は山ほどあつたし、先生もしやべりたりない様子。後日また伺う事を約束して、いとまをつげたのであつた。(高18 K. I)

手にしゃべっていて、会場は、えらい騒ぎである。そのうち料理が出ると、席を立つものが現われ、みるまに、座は乱れはじめ、座っている者も殆んどいない。久しぶりの友達と話す者、あつちのグループ、こつちのグループと馳れ巡る者、先生の周りに群を成す者といろいろだ。ところが終りの時間が迫つても、幹事がいくやきもきしても、一向に皆動き出す気配がない。幹事はマイクで声を限り叫んでいるがこれもむなし。遂に実力行使やむなきに至り、グループの核たる先生を追い出して、おさまりがつた。会場を出てからも、それぞれ喫茶店へ、赤提灯へと先生方を囲んで、流れていった。

参加者は130数名で、母集団500名からみれば不満だが、第1回としてはまあまあ盛況であつたと、自負している次第である。(18期幹事長 豊田哲也)

18期の方々へ連絡費を払っていない人は100円を住所を知らせていない人は住所を、それぞれ最寄の幹事まで

合同同期会企画さる

すでに御存知の方もあろうが、初代校長室岡孝治先生が、本年4月29日、勲四等旭日小綬章を叙勲された。その祝賀もかねて、大泉高校創立当時の職員生徒を中心として、合同同期会が開催される。

六本木族になったとぼ徳宝さん



大泉高校に20年間奉職された堀江先生のお宅は、大泉学園駅の南10分ばかりで、学校のすぐ近所。大泉は先生の地盤ともいえそうである。その先生が永年通いなれた学校への道が、徒歩でなく1時間以上かけての道のりに変わったのは、先生の生活にとっての一大変事に違いない。

「俺は六本木族になつてしまったよ」開口一番こうおっしゃる先生にまず驚かされた。そういえば今度の学校は地下鉄六本木の近くとか、まさに六本木族である。しかし真面目人間の先生は続けておっしゃる。「六本木っていうのはもつとすごいところかと思つてたのに、全然普

くぬぎ会の活動

一昨年の12月に発足した16期同期会「くぬぎ会」は、本年4月に第2回総会を開催した。わが同期で大学に現役入学した者はもう4年生となっている。また、結婚した女子は、まだ少ないが、それもここ2~3年のことであろう。こんな事情もあつて、われら幹事は3月から総会の準備にはいつた。会場は地下鉄銀座駅を出てすぐのレストランN、日時は4月23日の午後3時から、となつた。今回は特別企画として、豪華



野沢・本田・菊谷先生、鰐川(会長)上田・内田・中山(事務局長)佐々木(副会長)君らを中心として中学1期より高校4期までを対象に企画されたものである。日程は11月9日(午後6時より)会場は日興証券ホールを予定して、とのことである。この様な企画は初めての試みでもあり、その盛況が大いに期待されている。

事務局だより

- 本年度より、母校に同窓会係が設けられました。同窓会係となられた先生方は、次の4名です。本田正俊先生(数学)坂間利昭先生()橋本精一先生(国語)小川嘉一郎先生(理科)6月10日に母校との連絡会(係との第一回懇談会)がもたれました。○ 同窓会の会員名簿については、一面で述べられているように、現在審議中です。意見などをどしどしお寄せ下さい。○ 本年度の事業(特別)として、幹事会の機構充実のため、幹事名簿を作成中です。これは総会までに完成の予定です。○ 総会は一面でご覧のように、今

通の街だよ。どこがいいのかね」そこで我々が教えた、「先生、六本木は夜になるとすごくなるんですけど」

さて、新しくいらした先生、または去つていった先生に我々がまず最初に聞きたいのは、他の学校とわが大泉との違いである。その点については、「大泉と今度の学校の相違を一番強く感じる時は、何か用事があつて生徒のうちへ電話をかける時だよ。大泉ではまず初めに家の人が出て来て、本人を呼んでもらうというのが殆んどだけれど、今度の学校の場合は十中八九は本人が出て来る。つまり家庭環境が違つているんだよ。大泉の場合サラリーマンや公務員が多いが、六本木あたりでは自家営業が多いんだよ。きっと学校から帰れば家の仕事を手伝つたりするんだろうね。今流行の髪を伸ばしている男子生徒もいて、何度言つても切らないんだよ。そんなこともあつたりの雰囲気も影響しているんじゃないかな」どうやら先生は大泉の生徒とは全然質の違う生徒を相手

な景品の当る福引が用意された。

さて当日は、「大泉高校16期同窓会」と肉太につたない字でかかれた入口から奥の会場へと、人の列がづつ入った。K師、N師、H師ら、なつかしの先生も到来され、立ち喰い形式のパーティーは始まった。調子の悪いマイクに悩まされながらも会は進行し、先生の手による福引も1等が会長のH君に当たるとのおまけ付きで、とどこおりに終了した。

会場が狭く、ラッシュの国電なみの会であつたが、多数の出席に幹事はうれし悲鳴をあげた。会終了後も、なんとなく去りがたく、先生方を囲んで、2次会、3次会と続いた。反省会の集まりもよく、16期のまあまりの良さに、幹事連中は自画自賛の面持であつた。

なお、当くぬぎ会では、名簿の編集を行つており、この会報と同時位に発行される予定である。卒業して初めての同期の名簿であり、会員の期待にそうようと努力している。(くぬぎ会幹事 S)

月29日(日)に開かれます。皆さんの出席をお待ちしております。○ 幹事会の開催、新入会員への記念品(証書入れの筒)贈呈、その他の経理事務は例年どおり行われています。○ 地番変更・住所移動・結婚などによる氏名変更などがありましたら、事務局(又は幹事)の方へ御一報下さい。それによって名簿基本カードが充実しますので、必ず御協力下さい。(以上 事務局)

【編集後記】

○卒業してから半年、初めて会報の編集を手伝い、慣れないながらも努力しました。トツビな見出しも皆で考え、けっこう楽しい仕事でした。年に一度のうすっぺらな会報ですがこれをきっかけにいずみ会の一員であることを思い出されたら……H ○編集、それは茶肆に集つて暇を潰すの謂なり。我よく編集に貢献すること能はずして会報成る。願はくは本会報を読みつれば学舎の思い出にひたられむことを。Y ○いつ頃だったか「老朽車。LOVE ME TENDER」と書いた車が、走っているのを見かけました。「会報。LOVE ME TENCER」A ○会報マンネリ化の非難を一身に受

にして四苦八苦というところら「ところで近頃の女の子は無とか、たしなみがないとかどうもわからないね。夏休み徒のつきそいで山の寮に出かけ女の子が木に登つたり、屋根にころがったりするんだよ。まっ近頃の娘は活発なんだよ。けがた時なんかも、昔なら『先生薬い』と自分でやつたものこの頃は『先生薬ぬって』なんつて、腕でも足でもつき出してから驚くよ」といふように先生年の夏に女子生徒に関して新し見をなされたようである。かると、「車の運転ぐらいできなく現代の娘とはいえないだろうね達も運転ぐらいした方がいいよどとおつしやるので、先生の女の複雑さをちィつとのぞかされるな気持であつた。「それにしても、この頃の若は幸せだね。戦争の恐怖がないでも昔とは違うね。もつとも太気分ひたりきつてしまつて無なのは困るが……。日本では明治維新以来、戦争らない世代はなかつたけれど、はどうやら戦争を知らないで一終えられそうだね。それを思つても感慨深いなあ」こうおつしことばから、20年間の教師生活みじみと感じ取れるような気た。(高18 Y. K)

(1面より続き)

これからの活動

以上述べて来たように、いずは現在重要な曲角に立つていそれでは同窓会の活動とは如何るべきか。総会・名簿・会報等その基本活動である。そしてい会は、今ここに停滞しているが窓会の価値は上に述べたような活動に見出す事ができるのではろうか。編集部では同窓会の立の為、いくつかの都立高校の実調をみた。その中で最も注目てよいものに富士高校で行われる観劇会がある(同窓会が主催約20万円の収益をあげているさらに新宿高校(臨海)井草高校間)の、それぞれの寮がある。今までは基本活動のみに終つた本会の活動も、もうそろそろになり始めてよい頃である。富・新宿高とは歴史が違つて井草高は姉妹高である。ここで諸君の奮気を促したいが、その根本問題が、財政面にある事はし得ない。

現在本会の入会金は、終身会しての1,000円のみである。こけて7千名を越えた会員の全体担させる事は、重大な問題で言わねばならない。早急に何ら財政強化の手段をとる事に踏みねばなるまい。それなくして、の発展は有り得ないのである。そのあとは幹事の仕事である状の如く会員不在の会では、幹もやり甲斐がない。将来の発展に、ここで新しい方針が出されきであり、それは早ければ早いと我々は考える。(以上)

けている我々が、数年来の混迷雄飛せんものと発行する本第1事によると会員諸氏の中には、ひそめられる方があるやも知れ御意見は事務局まで! J ○何の因果か知らねども、会報員からは今年も抜け出せなかつ1年の7割を多かれ少なかれ集の為に努力して、未だ恋人さ暇もなし。どうぞポイントつれすてないで、この会報かわいがチョダイ!! I ○編集開始より7ヶ月余。やつ来た。うら若き編集員達の手綱めんと思つて、多勢に無勢で切られつ……。好評を確信ししんで本号を会員諸兄弟に贈る会報や秋風冷し帰り道 やせ